

神様の国

首藤 静夫

柏手に淑気こもりぬ村社 　　しずを

初詣という行事は気持ちがいい。普段は年寄りも上司も敬わないニイチャン、ネエチャンだが、殊勝に柏手を打ち深く頭を下げている。やはり日本の子だと思う。時々神社と寺院を取り違えて、お寺で柏手を打つ光景も目にするが、それでもいいではないか。無心に祈る心があれば良しとしよう。

僕が住む川崎市高津区のある狭い地域では諏訪神社が氏神様だ。その昔この一帯を開拓した小豪族が、出身元である諏訪のご神体を分祀したそつだ。

全国に多くの分社がある諏訪神社であるが、祭神はいずれも建御名方神^{タケミナカタノカミ}という。あの大国主命の子供だ。天照大神の遣いの神が地上の国をよこせと迫った時、大国主と他の兄弟は大人しく従ったが（国譲り）、彼一人が拒絶した。しかし遣いの神に信州・諏訪まで追い立てられてその地に閉じ込められたという。ちよつと冴えない話だ。拝むのに複雑な思いもあるが、全国に数多の分社を持つ大神社の祭神になったのだから大したものだ。

諏訪神社は七年に一度の御柱祭など、その土地風景は縄文色を濃く残す。これは天照^ニ侵入系と大国主・建御名方^ニ在来系との、縄張り争いを暗示するのであろうか。

それはともかく、日本人は神様好きで何でも神に祀りあげる。秀吉、家康も乃木さん、東郷さんも立派な神様だし、野球ではその昔、神様仏様稲尾様、去年は村神様で沸き返った。このように軽いノリで慕われ、お賽銭もどこかの教団のような強制でなく、気持よく投げられる神様であってほしい。

話は変わるが、神様の領域と一部重なる古代国家成立の謎解きが、ほとんど進んでいない。歴史資料面の研究はほぼやり尽くされているので、残る考古学上の発見に期待が集まるのだが大したものが出ない。大陸や半島からの新情報も少ない。このままでは、僕の提唱する「神武一行は水銀朱の鉱山探し集団」もいつ日の目を見ることがある。今年くらい何か、一発掘りあててくれぬか。